

2010年5月9日（日）

高橋亜希子

★今週の一言

ついにTEACCHでの研修生活が始まりました。日本では、GW明けのちょっと憂鬱な週の始まりでしょうか？ノースカロライナは、毎日暑いぐらいのいい天気が続いています。みんな半袖・短パン・ピーサン姿です。清水基金の合同研修で滞在していたシカゴは、風が強く気温も14,5度だったので、冬モードから一気に夏モードへの切り替えに、早速ショッピングモールで半袖を購入しました。

TEACCHのスタッフみなさんは、適当な英語しかできない私にも本当に親切にして下さり感激しています。私は、会話の武器に（笑、“ツール”ですね）電子辞書とノートとボールペンをよく使うのですが、ビジュアルインストラクションには慣れていらっしゃり、また私の英語レベルに合わせてくださっていると感じ、さすがやなぁと感服しています。私もこれまで自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）の相談者と話をするときに、わかるように伝えるには何をどのように伝えるといいか、あるいはどういう言葉を使うといいかとアウトプットする際に考えてからしゃべっていたのですが、同じように言葉を選び、ゆっくりと大事なことは強調して話してくれます。（それでも通じない時には書いてくれます）私が質問したいけど、単語がわからない時には電子辞書を見せ、文章を組み立て…といった具合に何とか会話を成立させています。そして、私が確認のために、つまり〇〇は△△か？と聞きなすと

「correct!」「exactly!」と、同意と肯定を示してくれるのも安心感につながり、めちゃくちゃ英語でも、もっとしゃべりたい気持ちにさせてくれます。

これまで、言語理解が難しい自閉症の人への疑似体験などを研修会でもやってきましたが、自分がその状況に置かれるとやっぱり辛いですし、本当にストレスフルです。その気持ちが改めてわかったことも、今後に生かせるといいなぁと思っています。（というか、まだまだコミュニケーションが難しい状況は続きますがね…）

それと、もうひとつ感じたことです。ノースカロライナでは毎日車の運転をせざるをえません。日本では田舎道でしか運転経験のない私も必要にかられ運転しています。1週間経ち、ようやくウインカーしたい時にワイパーしなくなりました。おまけに土地勘もほとんどない中でどうやって運転するのか超不安だったのですが、GPS（つまりカーナビ）に助けられています。が、初めはこのGPSも日本のものに比べると性能が悪く、行き先を入力しないと画面が出ません。（日本のものは、入力しなくても今どこを走っているか画面がでますよね）また、先を見通したい時も操作すると見えると思うのですが、それもできなくて、部分しか分からないことになりかなり困りました。そのため、私の住んでいるダーラムという町とTEACCHセンターのあるチャペルヒルは、高槻と茨木ぐらいの感じなのですが、全体像がつかめなくて、地図を入手するまでは出かけようにもとても不安でした。が、地図をゲットしたとたん、わからなかったことがクリアになり頭の中の記憶と地図で見る空間がフィットして「なーんやっ!」と一気に理解が進みました。全体像をつかむことも重要だと感じたのですが、伝えたかったのはこれではなくて、ナビの話です。ナビの取り扱いも初めは分からなくて泣きそうだったのですが、このナビとも格闘し、ZIPコード（郵便番号）で入れると、すっきりと行きたいところが出てくることを発見しました。その操作は、次のような感じです。ZIPを入れる（NCのどこの町かまで出る）→町の名前あるいは通りの名前を入れる→番地を入力→すると、「DONE!」と出ます。この「DONE!」が出

ると、やったー！とうれいすね。つまり「終わった、すんだ、完了！」という意味ですが、終わりと見通しと正しいというのが一緒にこの「DONE」に表現され、ASDの人もこの終わりが好きなのがよくわかりました。今、一番好きな言葉はこの「ダーン！」で「DONE」が出るとうれしくてナビの音声にはもっています。

ということで、電子辞書とカーナビとがないと、私のアメリカ生活は成り立ちません！！

.....

さて、ここからは今週訪問した就労サイトや就労形態について報告します。
念のため用語説明をしておきます。

形態	説明
モービルクルー	利用者とJCの複数名のクルーで1か所のみでの作業でなく、移動して作業を行う形態。掃除の仕事が中心。
エンクレーブ	日本的にいうとグループ就労の形態。同じ場所で複数名の利用者が仕事をし、JC1名が常駐している。(JCは、2~3名で入れ替わる)
1 to 1	利用者とJCの1対1での就労形態。※今週訪問した中には登場していません。
個別就労	文字通り、利用者が一人で働いている形態。

1、モービルクルー

初日は、モービルクルーのハウスクリーニングのチームに同行しました。ジョブコーチ（以下、JC）のゲイブさんとクリスティンさんと、利用者3名で最初のお家へ向かいました。（通常はJC1人で利用者2~3名で動くそうですが、この日の午前中は、一人の利用者さんが午前中で終了のため、JCがもう一人同行していたようです）

モービルクルーは、JCと複数の利用者のチームで、いくつかの現場を移動していく就労のスタイルで、ハウスキーピングを中心に行っています。1週間に6~8件のお家の掃除を利用者8名でシフトを組み行っています。この掃除の契約をしているのは、TEACCHの関係者も多く、サポートト Emploイメント（以下、SE）のディレクターのマイク・チャップマンのお宅やTEACCHで療育を受けていた家族など、留守宅にお掃除に入るので一定の信頼のおける関係のもとで契約し実施しているそうです。ハウスキーピングの料金は、お家の大きさや古いか新しいかなどによって違い、最大で60\$最低で35\$/回で、一般のハウスクリーニング業者より、やはり安いコストだそうです。最初に伺ったお家は、バスルーム3つ、ベツトルームも4つとかなりワイドなお家のために、利用者3人で午前中2時間かかってやっていました。掃除に関する機材は、掃除機3種類（カーペット用大と小、階段用）はTEACCHの備品で車に積んで移動しています。ですが、モップや洗剤、使用する雑巾などはお家のガレージに用意してあり、それを使ってやっていました。

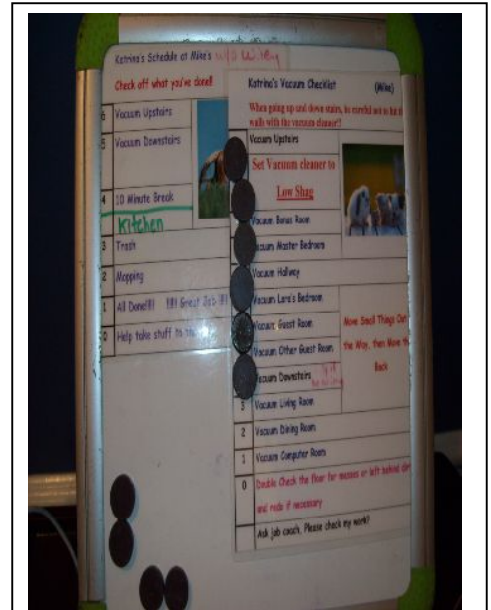
3人の利用者の担当する場所と作業の進捗状況に合わせて、スケジュールが組まれています。女性の

Kさんは、階段の掃除機がけやモップかけ中心で動き、男性で聴覚過敏のあるSさんは2階にあるバスルームを担当しドアを閉めて行っていました。Jさんは、1階の掃除機かけやごみ集め、窓ふきの担当です。Jさんが掃除機をかけ終わったら、Kさんがモップかけをするというような流れになっています。スケジュールで、1つの仕事が終わるとJCに「終わりました、私の仕事を確認してください」とそれぞれが言いに来ていて、JCがチェックしてOKが出たら終わりという流れです。

ハウスクリーニングは、それぞれのお家なので、なかなか視覚情報のコントロールが難しく、人によっては刺激が多く気になってしまったり、お宅のよって使うモップや洗剤の種類も違うので、利用者もJCも混乱しやすいとのことはあるようでした。(道具は多少違って同じやり方ですと自立しやすい)

利用者は、スケジュール、ワークシステムの一体型のもを使っていました。活動によって、使う雑巾やダスターのカラーを合わせて視覚的なキューを使っていたり、やるべきことがカウントダウン方式になっていたり(日本なら1、2…と順番で書くことが多いと思いますが、例えばやるべき事柄が8つなら、8、7…の順で、1はdoneつまり完了で、ゼロはJCに報告)という形になっていました。(写真)確かにやるべきことが減っていくのがわかるのと、どれくらいやるべきことがあるのかを示すにはカウトダウン方式はわかりやすいと、新しい発見でした。

現場でのJCの仕事は、一人ひとり現場によってのスケジュールとワークシステムの提供と、キッチンの掃除の際にパンやバナナ、トースターにミキサーなど置いてあるものをテーブルの上にとどかしておいて利用者が掃除しやすいようにしておくこと、それをまた元に戻すこと、掃除機やモップがけをする際に邪魔になるマットをどかしてまた元に戻すこと、契約者へのコメントシートへの記入、JCへの引き継ぎのノートへの記録です。もちろん、オフィスに戻ってからまたやることはあるのですが、現場では利用者が自立して作業を進めている部分と、どこをJCがサポートするのが明確になっていました。



2、エンクレーブ

・SAS (サス)

SASという巨大なコンピューターソフトウェア開発の会社のカフェテリア(社員食堂)2か所で、8人のASDの人が働いています。SASは本当に広大な敷地の中にいくつものビルディングがあり、1つの街みたいになっています。また、アメリカのビジネスマガジン「Fortune」で、2010年度の働きやすい会社ランキング100の1位になっており、病院も保育所もジムもプールも余暇活動(ヨガやソフトボール等)あり、勤務時間も従業員が自分で35時間/週を決めるほか、さまざまな待遇に驚く程の会社です。(ちなみにgoogle社は4位です)



ここは、以前も見学したことがあったのですが、開始から終わりまでのフルタイムで業務の様子を見せてもらうことができました。

ASタイプの方が中心で（知的障害があっても軽度）会社までバスを利用して自立して通っている人やタクシーで通っている人、お母さんが送っている人、JCがピックアップしている人などさまざまです。おおよそ9時～3時半までの時間帯で、パートタイムで雇用されています。

業務内容は、カフェテリアのディッシュウォッシャーに関連する業務全般と、カフェテリアのテーブルセットです。午前中は掃除やテーブルセットが中心で、12時からディッシュウォッシャー開始です。ディッシュウォッシャーは、3人でラインになって行いて、2つとものカフェテリアで、ほぼ同じ流れになっていました。

- 一番目（奥）：ゴミを捨て、フォークナイフ、コップ・マグカップをラックに入れ込む
- 二番目（中）：ラックにお皿・トレイを並べウォッシャーに流す、コップ類、
フォークナイフは、たまってきてからウォッシャーに流す
- 三番目（手前）：ウォッシャーから出てきたお皿をカートに並べる、トレイをラックに並べる

それぞれ勤務時間が若干違い、もちろん担当する仕事も異なります。また、日・曜日・週に2回と毎日やるのが違うため、スケジュールや業務のチェックリスト、視覚的構造化においても一人ひとり応じて用意されています。また、会社で働く上でのルールや守るべきことを目に見える形で示す「リマインダー」も多く使われていました。

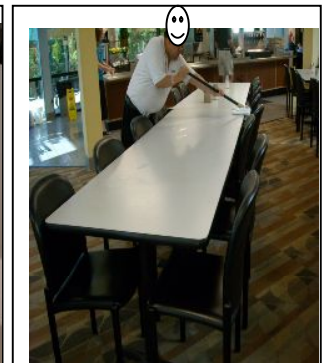
ここでは2つのアイデアを紹介します。



◎テーブルの拭きのジグ

多くの社員がお昼時に一斉に利用するカフェテリアなので、テーブルもたくさんあり、テーブルの上には、塩・コショウ・砂糖・観葉植物が置かれています。テーブルを拭くために、それらをいったんワゴンの上にとかして、ミニサイズのクイックワイパーを使って拭いて、写真左のテーブルサイズに合わせられたジグを使うことで、きれいにセットできるというものです。量が多いので腰が痛くなるのを配慮して、このミニワイパーを使っているそうです。また、このジグがあれば、どこに何をおけばいいかをマッチングしセットできます。

このテーブル拭きをするTさんは、この他にも、塩・コショウ・砂糖の補充作業、屋外のテラス席の塩・コショウの出し入れをしています。その際、いつも同じルートでテーブルを回っています。



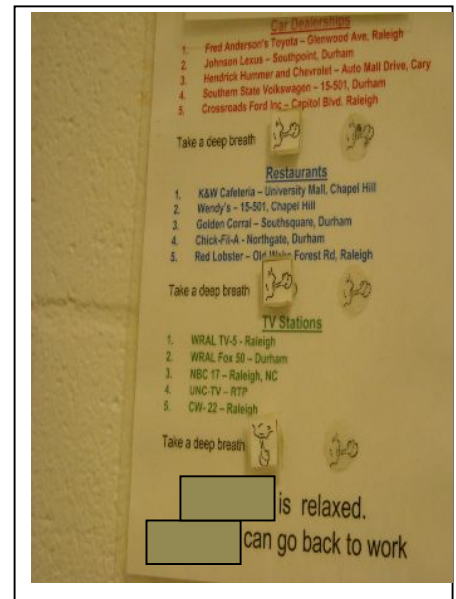
◎職場でのリラクゼーション

Bさんは、人の刺激に反応しやすくカフェテリアでも社員さんが行きかうと「Hi」とすぐに話かけて握手を求めます。また、少しのことでイライラして顎を自傷したり不安が高くなりJCに「僕はいい仕

事しているか？」という確認や「僕はヘルプを必要とします」などと言うことが多いそうです。（実際に私が同行したその日も、私が気になり I need help や何の車に乗っているか等質問攻めにあってしまいました）

そこで、毎日のスケジュールの中でもリラックスの方法を取り入れ、また実際にイライラした際にも「リラックス方法をしなさい」と JC も仕向けることができます。赤字で書かれているのは、B さんの好きな車のディーラー、青字で書かれているのは B さんの好きなレストラン、緑で書かれているのは B さんの好きな TV 番組とチャンネルです。それを読んで、深呼吸をする。（深呼吸している絵カードを左から右へ動かす）これを上から順番に繰り返して、最後に「B さんはリラックスした、B さんは仕事に戻ることができる！」となっています。

B さんの興味関心のある車が至るところで生かされていました。スケジュールにも好きなフォード車が貼られていたり、作業内容によってディシュルームやカフェでする等移動も多いので、次はどこへ行くのかをカーマップで表したりと、動機とやるべきこととのバランスが図れていました。



3、個別就労

高機能タイプの方が働いているサイトがみたいとリクエストをし、見せていただいた会社です。

・WHOLE FOOD（ホールフード）

WHOLE FOODというオーガニックの食品を取り扱うちょっとリッチなスーパーです。日本でいうと ikari や成城石井みたいな感じです。ここでは、2 人の AS の人が働いていました。JC のアイリスさんが、お二人に「自己紹介しなさい」と仕向けて下さり、私からいくつか質問をしてお仕事にも関わらずお時間を頂きました。

J さんは、スパイス類の補充を週 2 回、商品棚の商品バーコードのスキャンを週 3 日されています。月～木曜日は朝 8 時～12 時、金曜日は 9 時～13 時までで、週 5 日・4 時間/日で働き、13 年になるそうです。いろいろ聞いた後、J さんに夢は何ですか？と聞いたところ「フルタイムで働くこと」と答えてくれました。

もうお一人の A さんは、レジでバックインする仕事です。（ikari・成城石井ともにレジでスキャンした後、紙袋に入れてくれる人がいますよね、あの仕事です）A さんは、お客さんの商品の量を見てバックのサイズを選び、次々に袋に入れていき、最後は商品の入ったいくつかの紙袋をお客さんのカートに入れる、または手渡すということをしていました。彼ももう 10 年になるそうです。

・州立図書館

ラーレイにあるノースカロライナ州の州立図書館で、アーカイブスをスキャンする仕事をしている K さんの職場を見せてもらいました。K さんも、もう 10 年近く働いている AS の方で、ビジターが来るといつも説明をしてくれるそうで、私に対しても全ての作業工程の部屋を解説してくれました。そこで

は、たまたま日本人の女性の方が働いていて、日本語で説明を聞くことができホッとしました。同僚や上司はKさんのことを理解しているので、日常的には大きな問題はほとんど起こらないそうですが、急なビジターがKさんのことをよくわからずに関わったりすると年に1回くらいイライラして騒ぐことがある程度だということでした。

本当に決まったパターンで、しかも大量にある資料をさばっていく仕事なので、見事なジョブマッチングだと思いました。

・ Alphagraphics (印刷・製本の会社)

アルファグラフィックという印刷と製本の会社で、Eさんという女性のASの方が働いていました。アメリカのノートや本は、針金がクルクルなったコーリングタイプのものが多いのですが、それを機械に入れる前に手で巻き込む手作業、その機械操作、ソーティング(帳合い)、ラッピングをされていました。勤務時間は9時~16時です。Eさんはとてもユニークなキャラクターで、私がいくつか質問した後「じゃあ今度は私が質問するわよ、あなた携帯電話持ってる？」と聞き返していただきました。Eさんも勤続8年になるそうです。



4、(お金は支払われない) 地域での仕事

チャペルヒルのTEACCHセンター近くのレンタルビデオ屋さんでの掃除をするDさんに、レンジーさんという女性JCさんと同行しました。ボランティアに近いと教えてもらいましたが、Dさんの興味関心のある仕事を地域でやる、ということに意味があると思いました。

Dさんは、TEACCHセンターの近くのアパートに一人で住んでいて、朝9時にTEACCHセンターへ出勤してきます。そして、1日のスケジュールに沿って活動を開始します。週3日はモービルクルーでハウスクリーニングをし、火曜日のみレンタルビデオ屋さんでの掃除をしています。Dさんは、ディズニーやアニメが大好きです。このレンタルビデオ屋さんでもアニメなどがあるので、とても楽しみにしてやっているそうです。到着すると、①トイレの掃除②お店の外の窓ふき③ごみを集めて捨てる④店内のビデオ・DVDを整頓する(11:30まで)という流れです。

JCは、Dさんが苦手な犬や小さな子どもが来た時にのみ介入し、あとは距離をとって見ているだけです。レンジーさんが私に対して、Dさんへの関わりと課題を書いて教えてくれました。

- ・彼の仕事を近寄って見ないこと：距離をとって見る
- ・Dさんは小さい子どもが嫌い：私はDさんが子どもに向かって叫ばないよう子どもの近くに行く
- ・Dさんは初めてのこと・人・ものなんでも好き
- ・工作中的のちょっとした休憩でビデオ(のパッケージ)を見るのはOK

というものでした。実に的確なレンジーさんの指示に感心しました。当たり前ですが、JCとして、関わるべきポイント、自立してできることをちゃんと把握しているという証拠です。ここでもさすがと思いました。

5、余暇の支援

こういうことも支援しているんだなぁと感心した事例です。JCのレンジーさんに同行し、Cさんの余暇活動のサポートをしました。Cさんは、TEACCHの初期時代からの利用者で、なんと62歳。Cさんは現在リタイアメントホームに住んでいて、そこまでCさんをピックアップに行きました。このリタイアメントホームは、知的障害・発達障害のある人のリタイアメントホームで、日本風に言い換えるなら高齢の障害のある人の入所の施設でしょうか。（老人ホームと似てるとレンジーさんは教えてくれました）

やはり少し郊外ではありましたが、清潔で素敵な雰囲気の家でした。

Cさんは、TEACCHの初期時代からいろいろな仕事をして働き続けてきたそうで（レンジーさんわからないくらいとのこと）、今は週1回余暇のサポートとちょっとしたワークをTEACCHセンターへ来てやるペースのようです。

まずは、ランチにウェンディーズは行き、お約束のハンバーガーにチョコシェイク、ダイエットコークを注文し、満足げに食べられていました。ほとんどJCは見守っているだけです。Cさんはお話好きで、店員さんやラインに並ぶお客さんにも「素敵なネックレスね、ダイヤモンド？」とか「私はダイエットコークのラージサイズを飲むわ」と陽気に話しかけます。JCは、あまりに長くなってしまいそうな時にだけ声をかけて、次にやるべきことをサジェスチョンするのみでした。私の経験や日本だと、ペラペラ利用者が周りの人に話しかけてしまうとそれを止めさせたり、支援する側も恥ずかし気持ちになったりですが、オープンでCさんの楽しみでもあることをちゃんと理解されていました。これには、その背景と歴史も違うかと思いますが見習わねばと感じました。

次に、Cさんの日用品の買い物にウォルマートに行きました。その店員さんが「はーい、Cさんお元気？」と声をかけて来ました。Cさんは常連でよく来ていて、店員さんと声を掛け合ってお話し、ナチュラルだなぁとつくづく思いました。

買い物の後は、TEACCHセンターで、ちょっとしたワークです。TTAPのキットのカードをハサミでカットする作業を小1時間程して終了です。

Cさんは、動物、窃盗や犯罪者の話（これは車での移動中始終していました）、それからSEのディレクターのマイクが大好きで、作業中は「私はマイクが大好き」と独り言を言っていました。本当にマイクを目の前にするとうれしそうにされていて、もちろんマイクはちゃんとCさんの話を聞いてあげていました。

今週見ただけでも、就労が長期にわたっていることに、驚きました。長い人で13年と聞きましたが、働き続けていくためにも、利用者への的確な支援はもちろんのこと、企業とのコラボレーションをうまく図りながらされている証拠だと思いました。

私がこれまでしてきた支援は自分も中途半端な関わりしかできずに他のスタッフに任せたり、あるいは維持していくしくみを作らずに、また企業への配慮や協力関係もみんないい加減にやっていたのではないかと、自分たちのしてきたことの浅さというかもろさを痛感し、反省モードになった次第です。

来週も、いろんなサイトを見る予定です。次週をお楽しみに！